

# 発 言 通 告 書 要 旨 (1枚目/全4枚)

氏 名 東野 真樹

発言番号		発言事項及び発言要旨	備 考
1	(1)	<p>財政強化について 加賀市の成長戦略について</p> <p>今定例会での当初予算は市民生活に不可欠なサービスを最優先にした準骨格予算であるとのことだが、一般会計の予算額は 367 億 5,000 万円にものぼり、令和7年度末の基金残高見込みに対し、令和8年度末の基金残高見込みは、一般会計・特別会計のいずれも減少する見込みとなっている。</p> <p>人口減少が進み、物価高騰や人件費の増大などで、ますます財政状況が厳しくなっていくと予想される中、市民サービスを継続し発展させていくためには、財政強化を図る新たな投資を加賀市に呼び込む施策が不可欠になると思うが、方針すら示されていない。</p> <p>さらに、組織編成においても、これまで成長戦略に関する事業を引っ張ってきた政策企画部とイノベーション推進部を廃止、政策企画部については総務部の傘下となる企画課に縮小し、イノベーション推進部については、産業部の傘下となるデジタル推進課に縮小することにしたが、高市政権が積極財政を進め、今後地方創生に向けたあらゆる支援策が出てくる可能性がある中で、部から課に縮小することは、逆行しているのではないかと考える。</p> <p>消滅可能性都市と言われ窮地に立たされている加賀市にとって、今後一番重要となる加賀市の成長戦略について、所見を問う。</p>	
	(2)	<p>ふるさと納税推進事業について</p> <p>ふるさと納税は、市の財政強化を図る上では即効性もあり有効なものであると同時に、地場産業の活性化にも有効なものである。</p> <p>令和5年・6年・7年度と順調に寄附額を伸ばしてきているが、どのように分析しているのか。</p> <p>さらに、寄附増額に向けた取組について、詳しい説明を求める。</p>	

# 発 言 通 告 書 要 旨 (2枚目/全4枚)

氏 名 東野 真樹

発言番号	発言事項及び発言要旨	備 考
(3)	<p>① 未来型商業エリアについて                      複合型商業施設建設における行政の役割及び市が期待する効果及び将来の加賀温泉駅周辺のビジョンについて</p> <p>複合型商業施設を建設し、運営するのは、イオンモール新小松やイオンモール白山と同様に、あくまで民間が全て行うものであるが、いまだに市の税金を使って建て、運営していくものだと勘違いしている市民が多くいるように思う。</p> <p>300億円の投資が呼び込めると期待されるこの計画を進めることにした場合、市が果たすべき役割について示せ。</p> <p>さらに、有識者に分析してもらう上では、市が期待する効果及び将来に向けての加賀温泉駅周辺のビジョンが当然必要であると考え、市が期待する効果及び将来に向けて掲げる加賀温泉駅周辺を整備していく上でのビジョンを示せ。</p>	
	<p>② 中学生や高校生の意見について</p> <p>昨年8月に行った中学生議会や先月に行った大聖寺実業高校との意見交換会のどちらの場でも、加賀温泉駅周辺に若者が集う場所として、商業施設やアミューズメントパークの実現を求める意見が出ていた。</p> <p>さらに、大聖寺実業高校との意見交換会では、福祉の分野においても、子供からお年寄りまで、障がいのある方々など、全ての市民が誰一人取り残されることのない「安心して・楽しんで・くつろげる」場所としての複合型商業施設を求める意見が出ていた。</p> <p>直接若者が反応する、若者に向けた施策をつくるのが難しい中、ボトムアップ市政を掲げる市長にとって、このような意見は絶対に無視してはならないと考えるが、若者の意見に対しての見解を問う。</p>	

発 言 通 告 書 要 旨 (3枚目/全4枚)

氏 名 東野 真樹

発言番号	発言事項及び発言要旨	備 考
(4)	<p>新産業創出事業について</p> <p>エアモビリティ産業の創出について、先般の12月定例会の同僚議員の質問に対し、市長就任後JAXAやJAL、法政大学や内閣府などの中核事業者と対話し、協議はこれまでどおり進めつつ、タウンミーティング等で市民からの意見を伺いながら、地元産業への効果が見込めるのか、加賀市再生プロジェクト検討会で見極め、6月をめどに補正予算で対応する方針であるとのことであったが、民間や国の機関など36団体、オブザーバー8団体で構成している加賀市次世代エアモビリティコンソーシアムでの検討内容や創出に向けて加賀市が果たす役割など、詳しい説明がないまま加賀市再生プロジェクト検討会で議論していると聞いている。</p> <p>国家戦略特区だから創出することができる加賀市にとって、大きなチャンスをつかめるかもしれないこの事業を、議会や市民に説明がないまま、継続するかしないかを加賀市再生プロジェクト検討会で決定することが適切であると考えているのか。</p>	
(5)	<p>観光産業に関する独自の予算確保について</p> <p>加賀市にとって、裾野の広い観光産業は基幹産業であり、観光産業を維持し発展させていくことは、市の活性化に直結する重要な課題である。</p> <p>北陸新幹線が開業してもコロナ禍前の観光入り込み客数に戻らないことや、観光地の整備、廃業旅館の解体など、多くの課題を抱える観光産業を維持し、発展させていくためには、観光に関する独自の財源確保が必要であると考えている。</p> <p>市の財政状況が今後さらに厳しくなっていく中、観光を維持し発展させるため、加賀市観光交流機構や観光協会、旅館組合などの関係団体と十分に協議を行い、入湯税の見直しや宿泊税の導入についての検討を進めてはどうかと考えるが、所見を問う。</p>	
2	<p>飼い主のいない猫の不妊・去勢手術助成事業について</p> <p>雌猫の不妊手術の助成単価を増額し、ボランティア活動をしている方々の負担軽減を図るとのことであるが、事業内容の詳細(金額・見込み件数・開始の時期など)を示せ。</p> <p>また、ボランティア活動をしている方々(利用資格確認証を持っていない方も含め)への周知はどのようにして行うのか。周知方法について併せて問う。</p>	

# 発 言 通 告 書 要 旨 (4枚目/全4枚)

氏 名 東野 真樹

発言番号	発言事項及び発言要旨	備 考
3	<p>教育ビジョン推進事業について</p> <p>教育長は、前教育長から「BE THE PLAYER」をスローガンにした「そろえる教育」から「伸ばす教育」へという方針を継承し、教育改革を進めてきている。</p> <p>就任から1年がたった今、子供たちや職員、保護者などの変化や意見を踏まえ、どのように思っているのか。就任1年目の感想を尋ねる。</p> <p>また、次年度は方向性をそのままに、学びをさらに進化させ、子供の「今」と「未来」をもっと幸せにするための次なる挑戦を行うとのことであるが、次年度にける教育長の意気込みを問う。</p>	